

次世代大気モデルによる結果（図1）と気象衛星ひまわりによる画像（図2）。次世代大気モデルでは、赤道付近の個々の積雲が表現されるとともに、それらが組織化した積雲群としての構造や動きが、実際の積雲群の特徴をよく捉えて表現されている。

また、中緯度の低気圧についても詳細な構造の表現が可能となることが分かる。

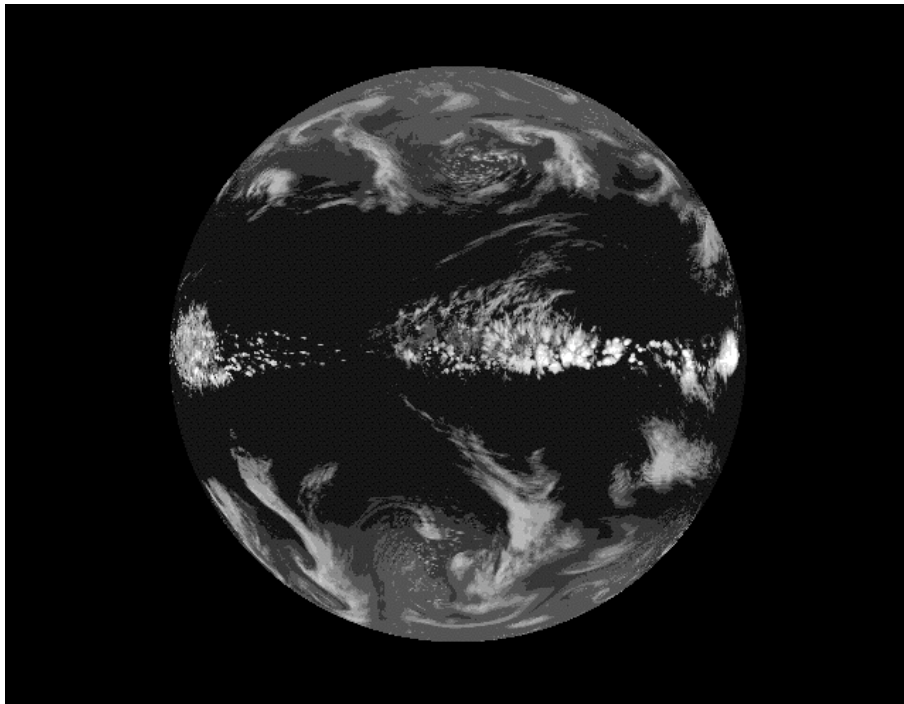


図1：次世代大気モデルの計算結果から作成した全球の雲画像

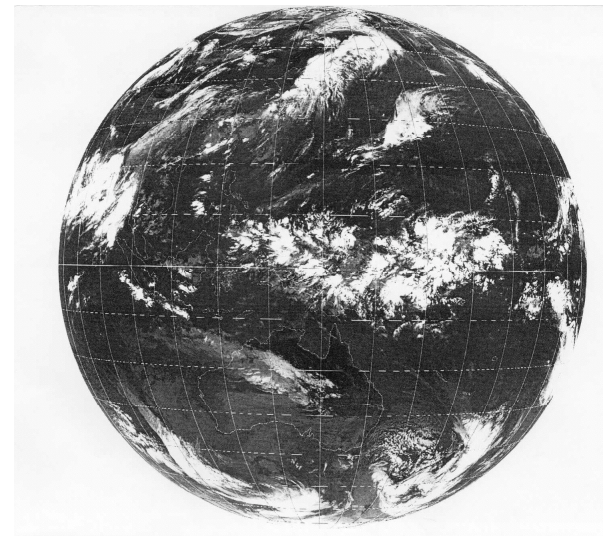


図2：熱帯域の積雲群を捉えたひまわり画像  
（1993年6月13日）気象庁による